

2026年度 サポチル関東 研修プログラム

【自閉スペクトラム文献セミナー】の本棚

本プログラムは2年間コースで自閉スペクトラムに関する文献を通して、古典から自閉スペクトラムの概念化と理論化を辿り、現代の分析的臨床の広がりを見つめます。

以下は講読予定文献の一部です。

※単年参加も可能です。

- ・レオ・カナー(Leo Kanner)『小児期自閉症(Early Infantile Autism)』(1943)邦訳
- ・ハンス・アスペルガー(Hans Asperger)『小児期の自閉的精神病質』(1944)邦訳
- ・メラニー・クラインによる最初の分析的アプローチ「ディックの治療報告」(1930)及び
フランシス・タスティン(Frances Tustin)、マリア・ロード(Maria Rhode)による論評
- ・フランシス・タスティン(Frances Tustin)の文献、未邦訳文献
- ・ドナルド・メルツァーの文献(例:Meltzer in Paris 5. A child with autistic elements and undeveloped symbolic function)
- ・ラスティン&ロード篇:『発達障害・被虐待児のこころの世界 精神分析による包括的理解』
- ・ケイト・バロウズ編:『自閉症スペクトラムの臨床 大人と子どもへの精神分析的アプローチ』
本書に収録されているミトラニー、ウーゼルの論文に加え、両者の未邦訳論文も講読対象とする予定です。

☆上記とは別に、当事者・関係者の報告を、参加者各自が自発的に読んだものを簡単に紹介

- ・オリバー・サックス『火星の人類学者』およびそのモデルとなった当事者の記録
 - ・クララ・パーク『自閉症児エリーの記録』『自閉症の娘との四十年の記録』
 - ・Login H.『無限振子』
 - ・森口 奈緒美
 - ・横道 誠 など、
- 多様な立場・語りに触れる予定です。

☆参加者からの講読希望の文献も検討予定です。